

日銀神戸
支店長の
視点

竜田博之氏



当地に着任して2カ月弱が経過しました。これまで神戸以外の地域には訪問機会がなかったため、早速、淡路島や播磨、丹波、但馬を訪れてみて、兵庫五国の多様性とその魅力の一端が分かりました。特に、青空がきれいに見える高さで幾重にも重なる山と田園が広がる丹波の風景には心を打たれましたし、黒豆パンにもはまっています。

さて、当店の大事な仕事である県内景気的情勢判断ですが、現状、兵庫県は、資源価格の上昇や新型コロナウイルスの影響を受けつつも、「基調としては持ち直している」と考えています。

先行きを展望するうえで、以下の三つのポイントがあると思っています。一つ目は、原材料価格と物価上昇の

県内景気 次のポイントは

影響です。全国同様、県内でも、企業が原材料価格の上昇を販売価格に転嫁する動きがみられる中で、家計の消費行動、企業の売上・収益への影響を見ておく必要があります。

二つ目は、ウクライナ情勢や、米欧のインフレ、中国のゼロコロナ政策等、世界情勢が輸出やグローバルなサプライチェーンに及ぼす影響です。

三つ目は、急速な円安です。急速な円安のもとでは、企業が不確実性に直面するため、前向きな対応を取りづらくなるほか、物価面を見ても、国内の価格への波及経路を含めて先行きの不確実性が高くなります。

こうした三つのポイントの当地企業への影響については、現在、当店が約320先の県内企業を対象に実施している企業短期経済観測調査(短観)や当地企業の方々の面談等を通じて確認中です。その結果は次回紙面で紹介します。今後ともよろしくお願ひします。